

『ピアノの詩人 フレデリック・ショパン』

先日会長が公務のためお休みするので「何か作曲家の話でもしてください」とのお話がありました。そこで今日は<ピアノの詩人>フレデリック・ショパンのお話をします。

ショパンは1810年2月22日当時のワルシャワ公国(ナポレオンが治めていた数年しか存在しない国)のジェラズヴァ・ヴィラという田舎町に誕生しました。現在はポーランドですがこの国はドイツとソ連に挟まれた富裕な土地なので3度も分裂支配された悲劇の国です。

それでも果敢な国民性で秘めたる心がショパンのメロディーとリズム感になったのでしょうか。

音楽好きのフランス人の父とポーランド人の母の間で生まれたショパンは生まれた時から音楽人生は始まっていたのでしょうか。

生後間もなくワルシャワに移住6歳でピアノを人前で演奏しモーツアルトの再来といわれる。その後ワルシャワ音楽院で学び、20才の時にウイーンへ旅立ちますが、すぐに祖国が革命を起こしウイーンに居られなくなり、1831年9月ウイーンを去りパリに旅立ちます。その後一度も祖国の地を踏むことがありませんでした。

パリに辿り着き次第に音楽家としての名声を高めてゆき、社交界の花形として華々しい活躍をします。26才の時、16歳の女性と恋に陥りますが求婚に失敗し落ちこんでいるときに6歳年上のジジョルジュ・サンドという男勝りの小説家の女性と10年間連れ添うことになります。

1849年10月17日39歳で死去。

肺結核だといわれているが、彼の遺言でポーランドに埋めて欲しいと言ったが叶わず心臓だけコニャックに浸されワルシャワの聖十字架協会の柱に現在も埋められています。

今日は、山内結実さんにリモートで「マズルカ作品 50-2」を演奏して頂きます。

